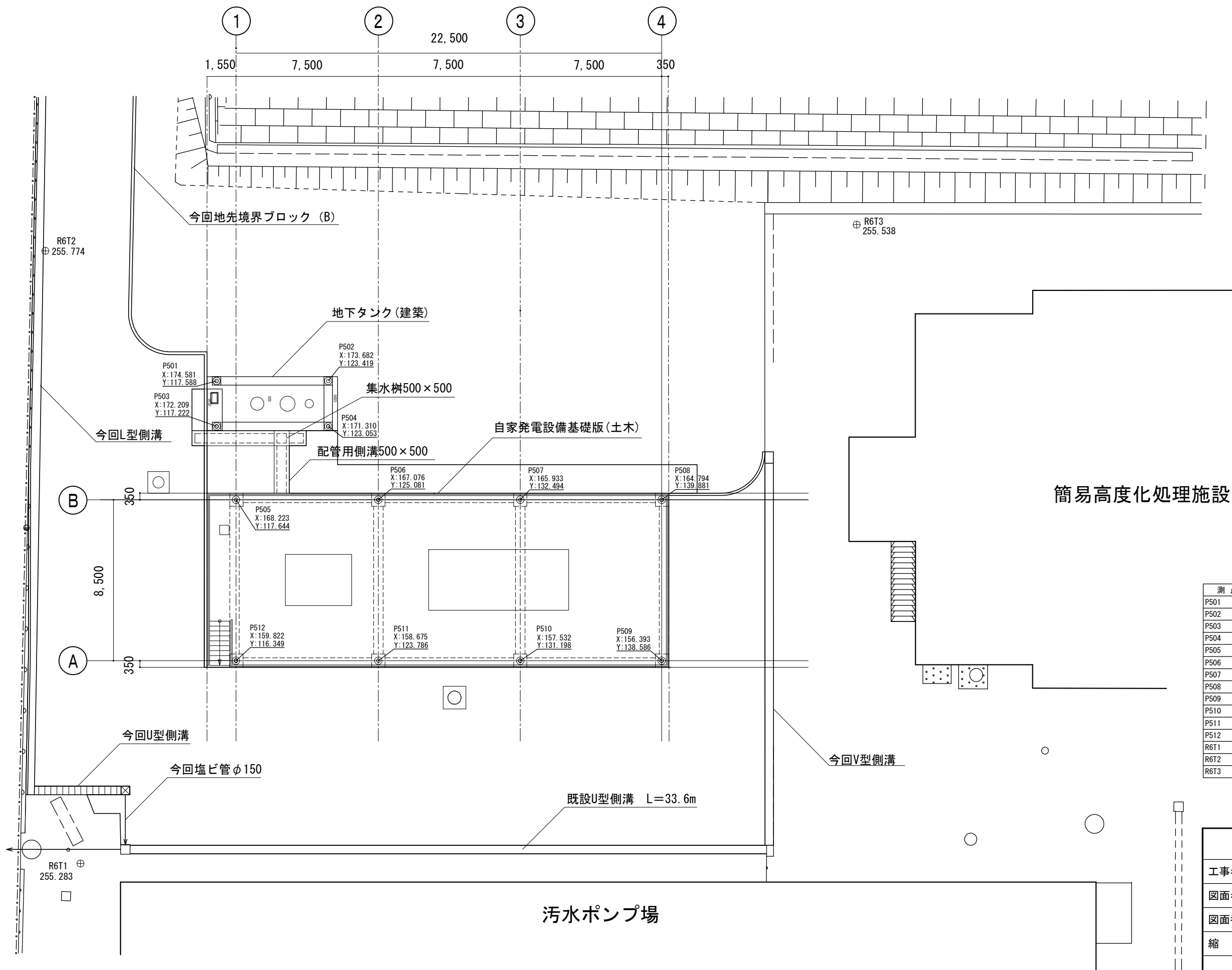


- | | | | |
|-----------------|--------------------|------|-------|
| 住 吉 中 継 ポ ン プ 場 | | | |
| 工事名称 | 住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事 | | |
| 図面名称 | 一般平面図 | | |
| 図面番号 | D-1 | | |
| 縮 尺 | A1:1/500 A3:1/1000 | 設計年度 | 令和6年度 |
| 甲 府 市 上 下 水 道 局 | | | |

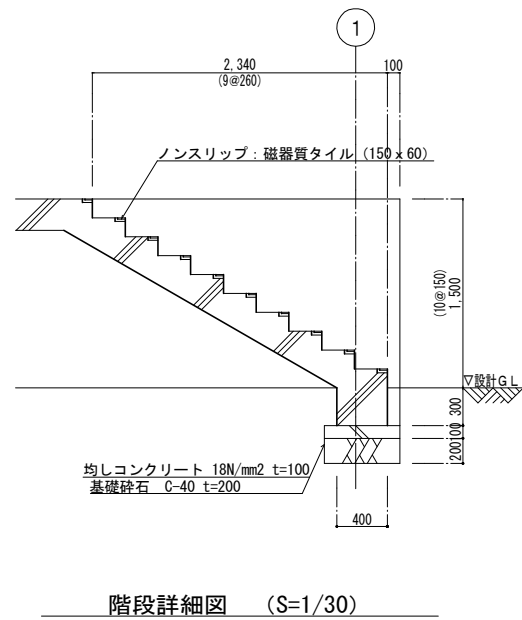
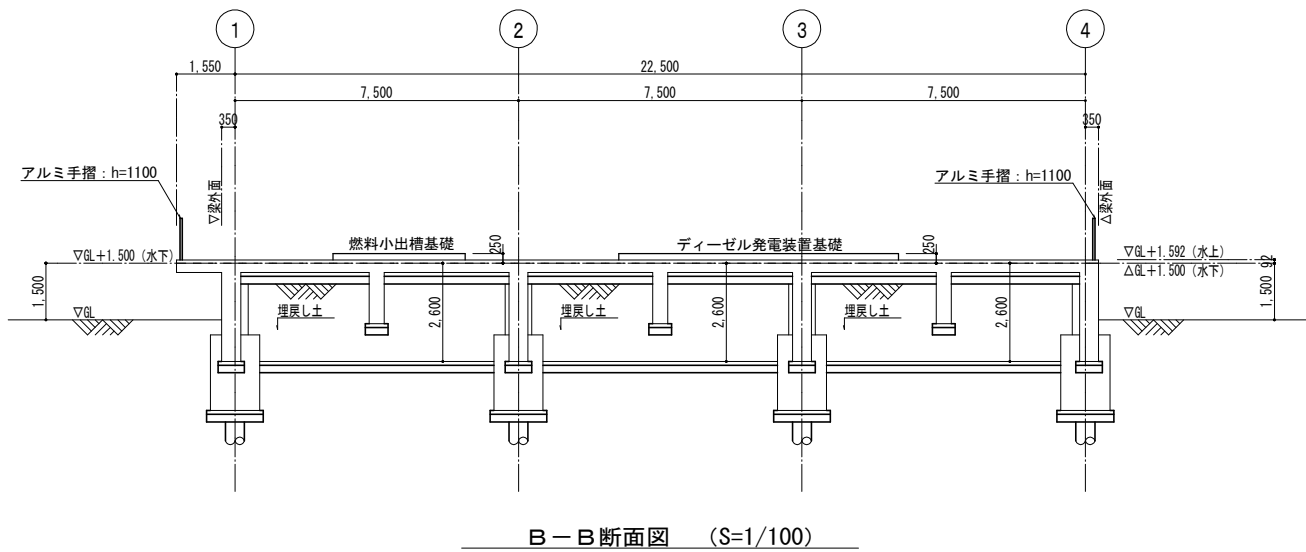
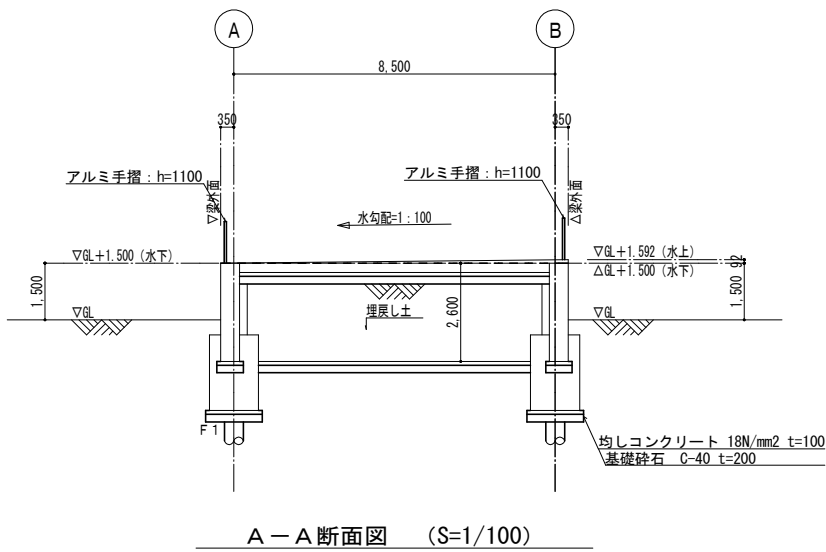
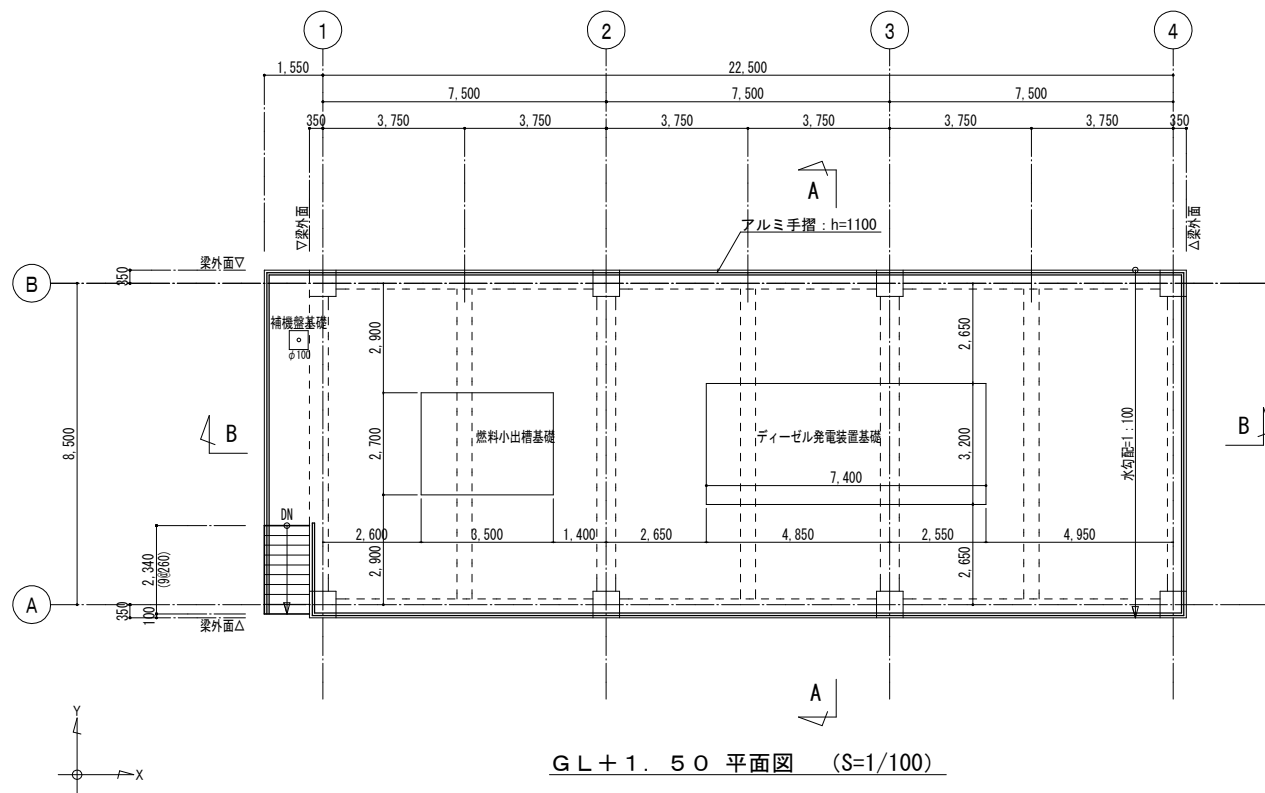
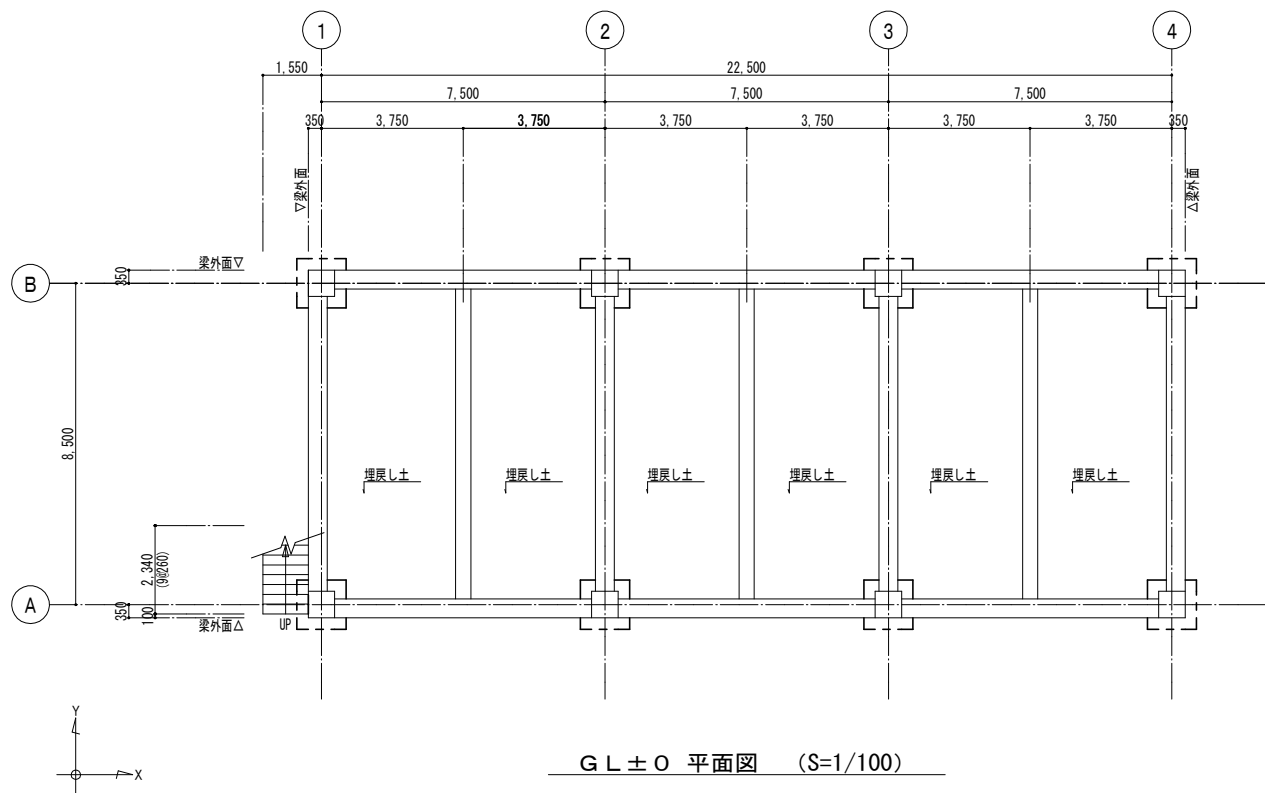
配置平面図



座 標 一 覧 表

測 点 名	X 座 標	Y 座 標
P501	174.581	117.588
P502	173.682	123.419
P503	172.209	117.222
P504	171.310	123.053
P505	168.223	117.644
P506	167.076	125.081
P507	165.933	132.494
P508	164.794	139.881
P509	156.393	138.586
P510	157.532	131.198
P511	158.675	123.786
P512	159.822	116.349
R6T1	150.489	106.591
R6T2	182.756	109.692
R6T3	177.583	152.279

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	配置平面図		
図面番号	D-2		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



注 記

- ①-②通りにφ80（2箇所）の開口をスラブ及び壁にそれぞれ設ける。
開口位置は電気図面（自家発廻り平面図）を参照し、電気業者と調整の上、施工すること。
- ②-③通りにφ150（1箇所）、φ80（3箇所）の開口をスラブ及び壁にそれぞれ設ける。開口位置は電気図面（自家発廻り平面図）を参照し、電気業者と調整の上、施工すること。

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 構造図（１）		
図面番号	D-3		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

De-G2 アルミ手摺 仕様

S=――

【材 料】

(1)材種は、JIS H4100によるA6063S-T5またはA6063S-T6またはA6061 S-T6とし押出し型材を使用する。

(2)設計条件

部材名	部材名		設計条件
笠木	水平方向	設計耐力	1.5kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
	垂直方向	設計耐力	1.0kN/m
		たわみ量	500N/mで1/500以下かつ5mm以下 局部荷重500Nで1/100以下
支柱	水平方向	設計耐力	2.7kN/mまたは3.0kN・m
		たわみ量	局部荷重500Nで1/100以下

(3)表面処理は、建築工事共通仕様書14.2.1表のB-1種とする。

(4)支柱、笠木、控柱には補強材は使用しない。その他の部位に使用する補強材はJIS H 8610の5級(クロメート皮膜JIS H8625のQM2C)以上とする。

(5)小ネジの類はステンレス(SUS304、SUS305J1またはSUSXM7)とする。

【取付：その他】

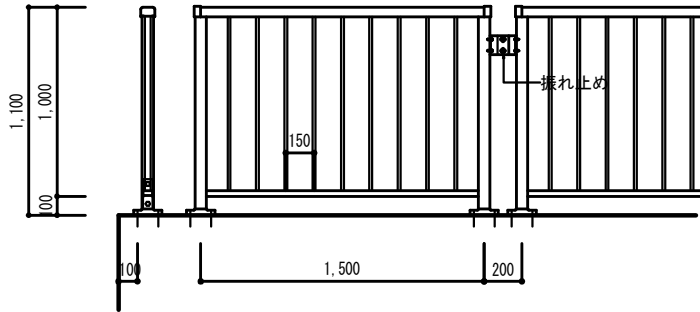
(1)形状

	支柱間隔	笠木	手すり子間隔	足掛けよりの高さ	下部のすき間	控柱
廊下/バルコニー	1,800/2,000	――	@150	1,000	100	――
屋上	1,800/2,000	――	@150	1,000	100	@3,600又は――
階段	1500内外	――	@125以内	900	50	――
部材厚	3mm以上	3mm以上	――	――	――	3mm以上

(2)現場取付作業以外の組立等は工場制作とする。伸縮目地は必要に応じて設ける。

(3)切断面の処置は、バリ等を適切な方法で除去する。端部の小口は同材にてふたをして仕上げる。

(4)設計耐力及びたわみ量は、工場にて試験を行い監督職員に報告する。なお、公的試験書をもって、これに代える事が出来る。



仕様

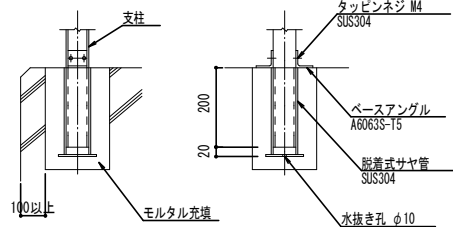
1)ベースポストの仕様は、製造メーカーの仕様によるものとし、H-12の設置耐力を満足するものとする。

注意事項

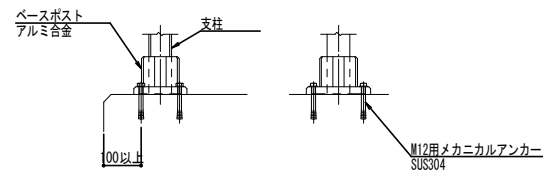
- 野外用については、温度変化による伸縮について検討する。
- ベースポストタイプは柱脚が躯体に埋め込みない場合に適用する。
- へりあき寸法を100mm以上とする。
- 水抜き管は、原則として水路側又は池側に設ける。排水対策の講じられていない配管・排水ピット側等には原則として設けてはならない。

取外し式

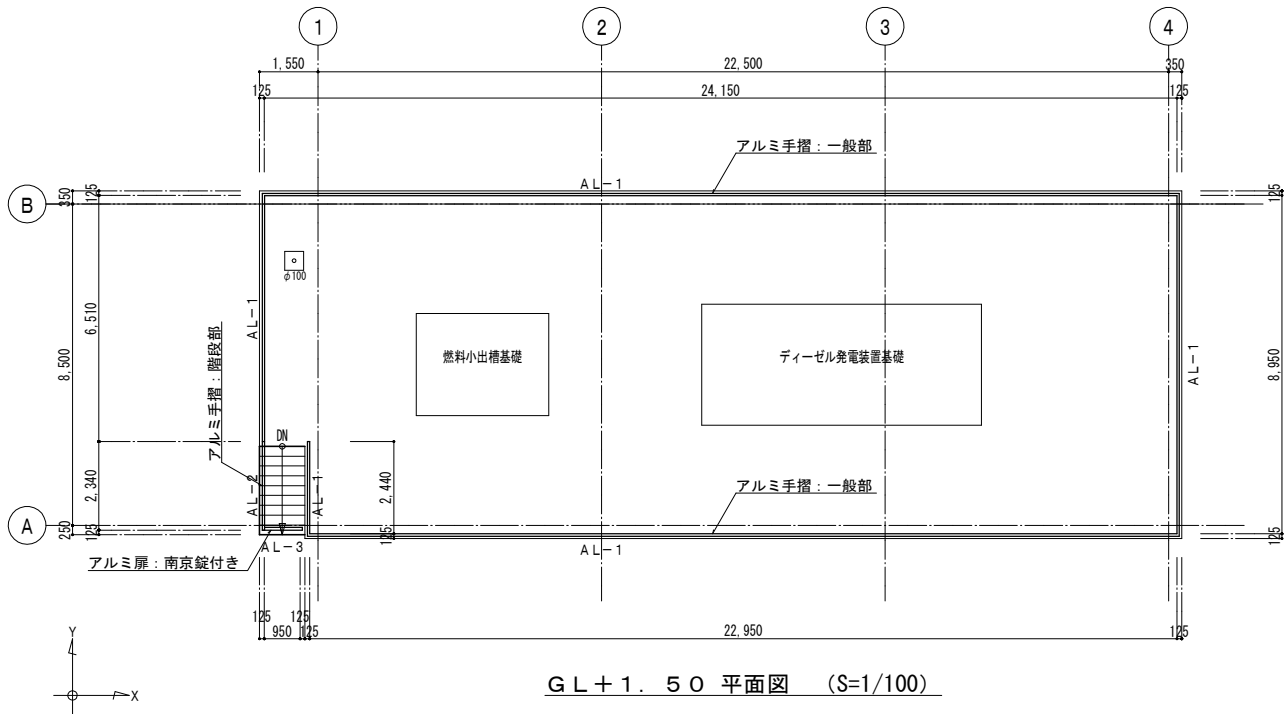
1)埋込タイプ



2)ベースポストタイプ



取付場所	符 号	形状	手摺高さ (mm)	1箇所当りの長さ (m)	箇所数	備考
自家発電設備 基礎版	AL-1	一般部	1100	65.00	1	取外し式（ベースポストタイプ）
自家発電設備 基礎版	AL-2	階段部	1100	2.34	1	取外し式（ベースポストタイプ）
自家発電設備 基礎版	AL-3	階段部	1100	0.95	1	アルミ扉（南京錠付）

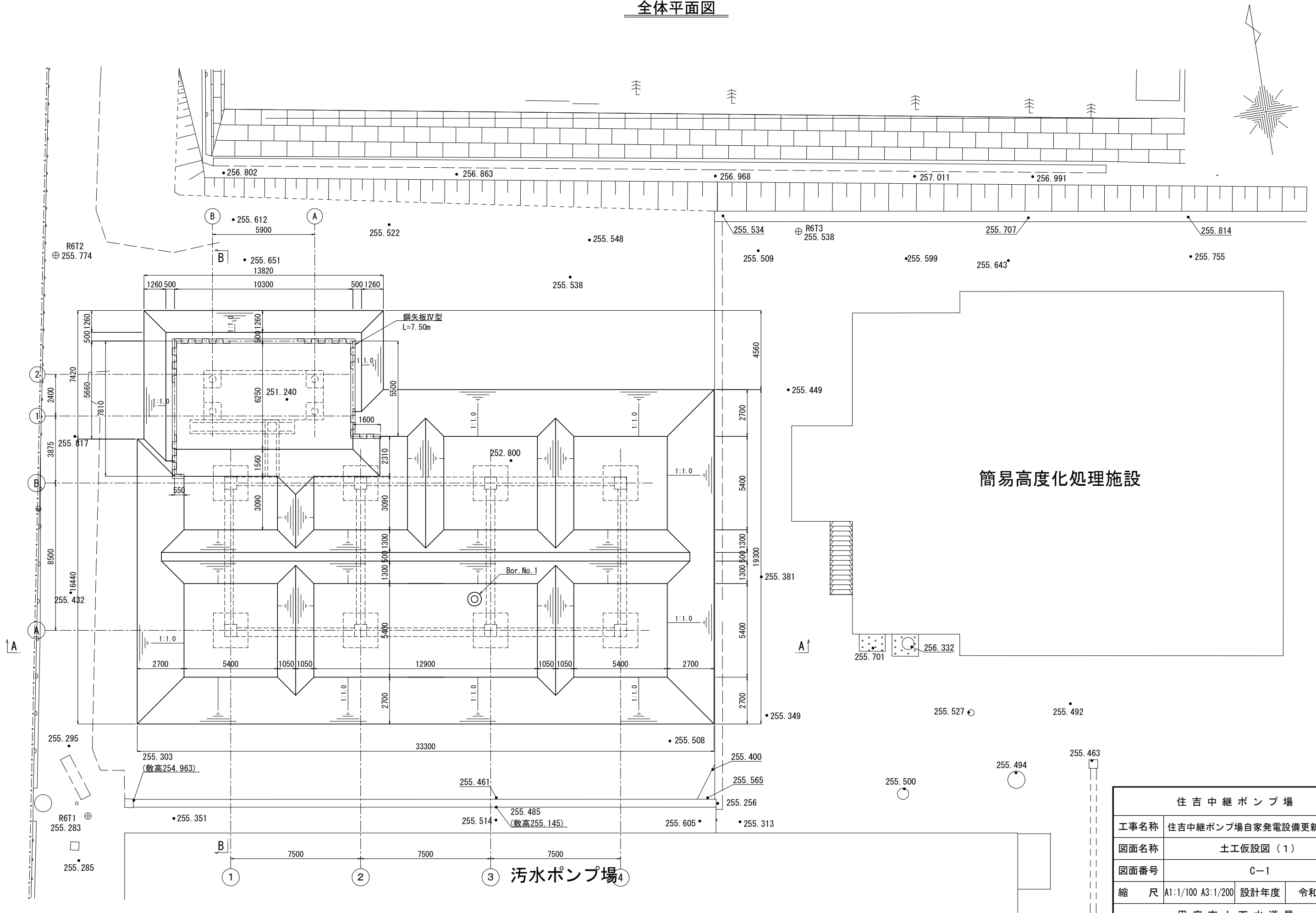


住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 構造図（２）		
図面番号	D-4		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

土工仮設図（１）

S=1/100

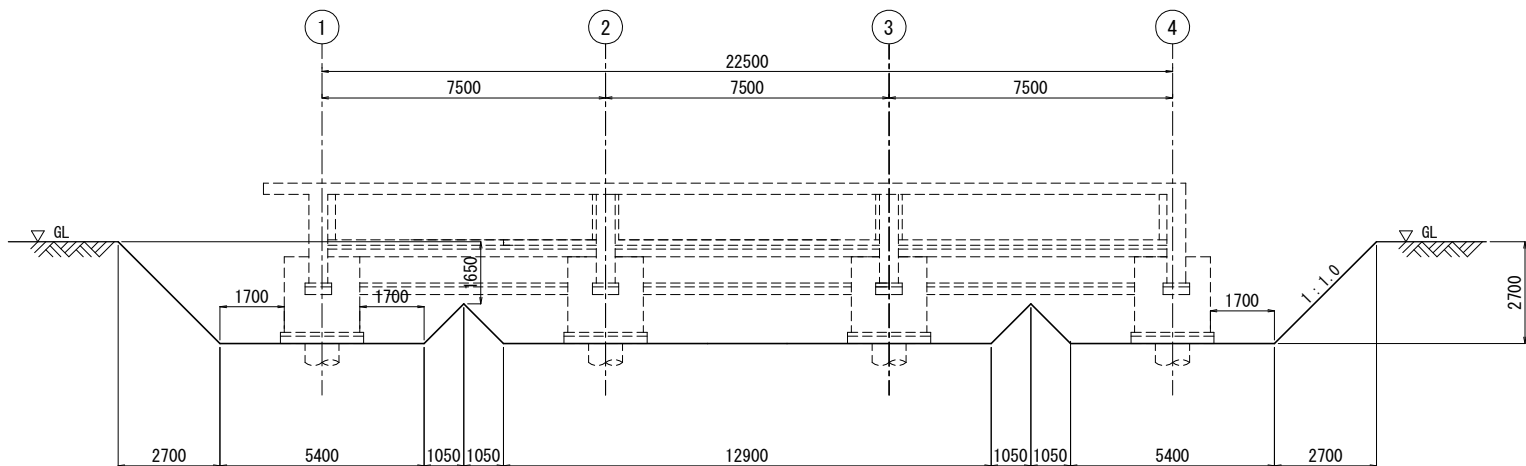
全体平面図



土工仮設図（2）

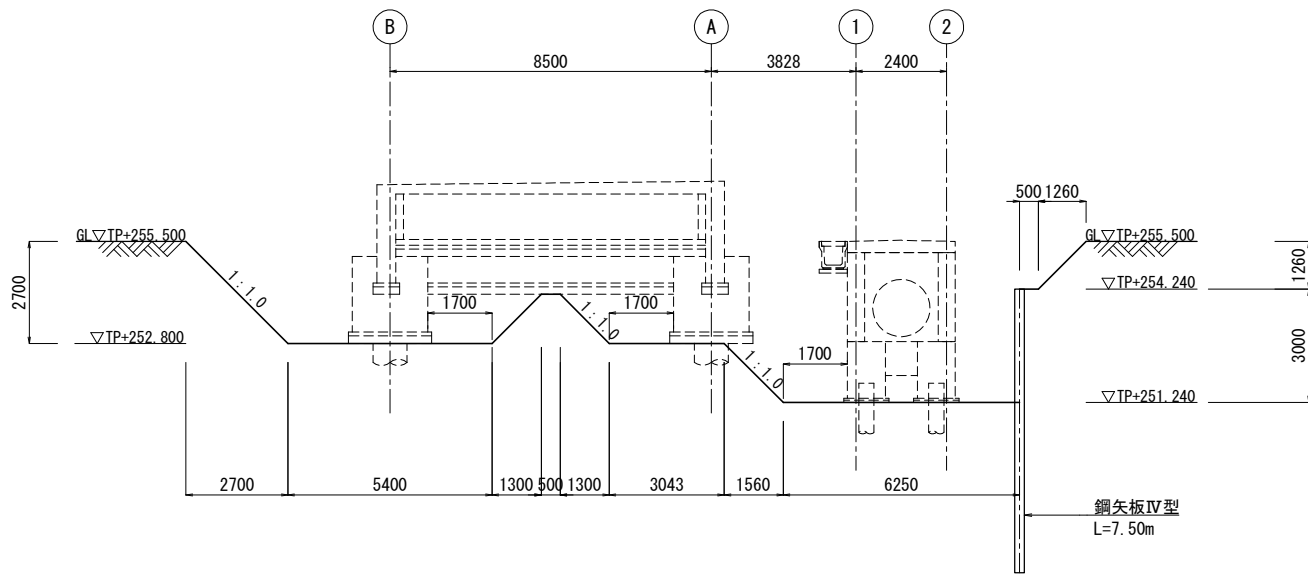
S=1/100

A-A断面図



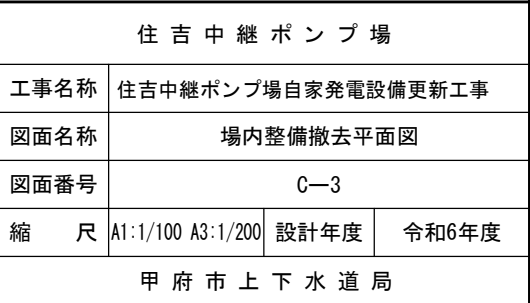
No.1			
標高 (m)	柱状図	土質名	N 値
255.60			0 10 20 30 40
255.20		盛土・砂質土	
253.90		盛土・礫混り砂質粘土	2.6
252.85		砂質シルト	3.4
250.90		細砂	8
250.30		中細砂	11
249.25		砂礫	23
247.90		シルト	11
246.80		砂質シルト	2.6
242.50		中細砂	5.3
239.90		シルト	21

B-B断面図

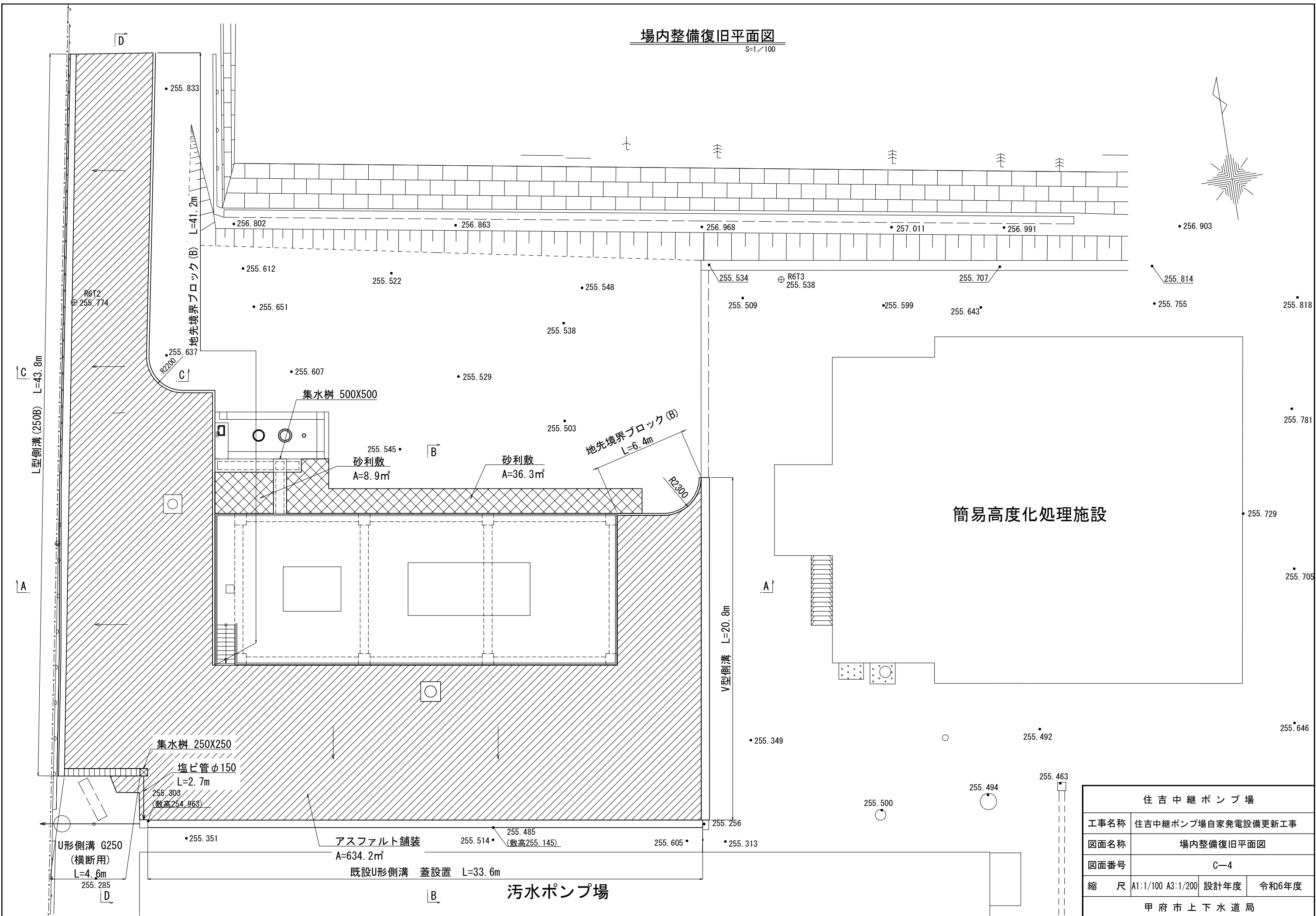


No.1			
標高 (m)	柱状図	土質名	N 値
255.60			0 10 20 30 40
255.20		盛土・砂質土	
253.90		盛土・礫混り砂質粘土	2.6
252.85		砂質シルト	3.4
250.90		細砂	8
250.30		中細砂	11
249.25		砂礫	23
247.90		シルト	11
246.80		砂質シルト	2.6
242.50		中細砂	5.3
239.90		シルト	21

住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	土工仮設図（2）		
図面番号	C-2		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			

$S=1/100$ 

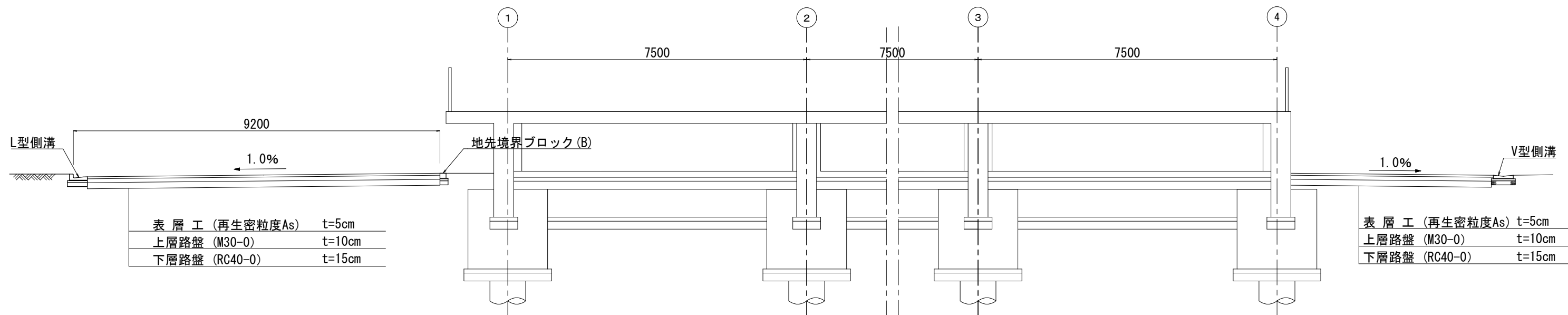
場内整備復旧平面図
S=1/100



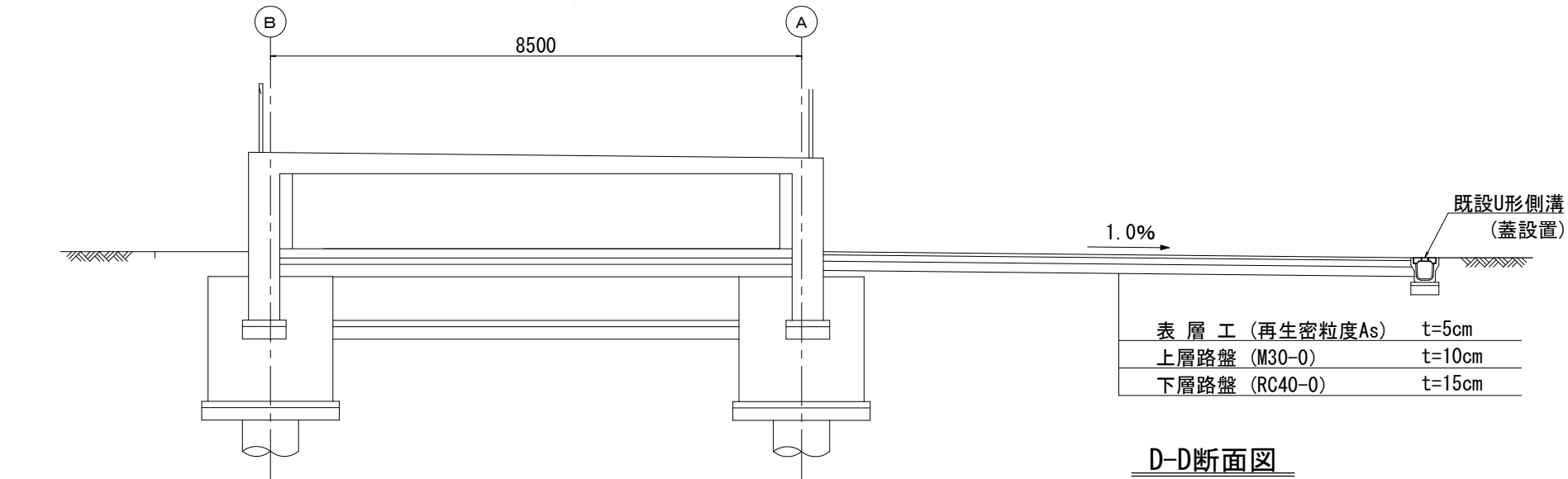
住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	場内整備復旧平面図		
図面番号	C-4		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			

場内整備復旧断面図

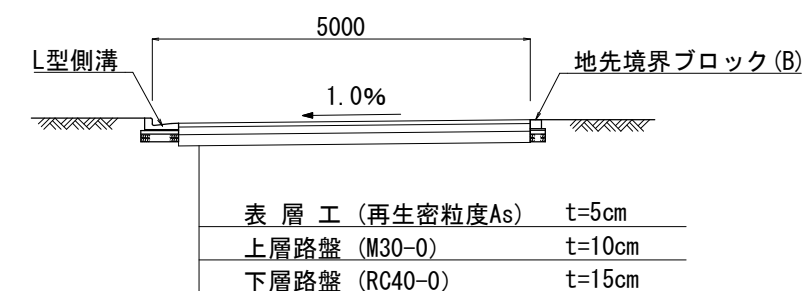
A-A断面図
S=1/50



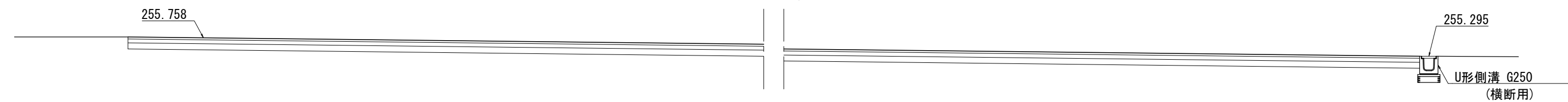
B-B断面図
S=1/50



C-C断面図
S=1/50



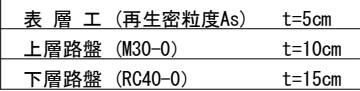
D-D断面図
S=1/50



+253.000

住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	場内整備復旧断面図		
図面番号	C-5		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			

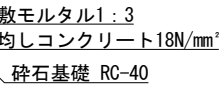
S=1/10



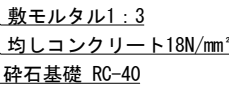
S=1/10



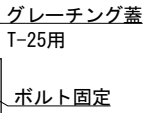
S=1/10



S=1/10



S=1/10



S=1/10

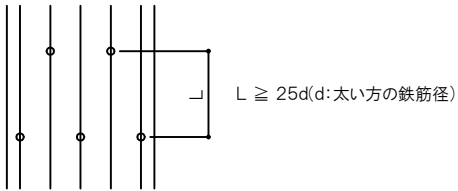


住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	場内付帯構造図		
図面番号	C—6		
縮 尺	A1:1/10 A3:1/20	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

5. 2. 2 鉄筋のガス圧接および機械式継手

鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は土木学会「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」（土木学会）による。機械式継手は、ねじふし鉄筋継手工法とする。また、ねじふし鉄筋継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

- (1)同一断面での継手は軸方向に相互にずらす。
(2)ガス圧接の場合のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の25倍以上とする。
(3)機械式継手のずらす距離(L)は、太い方の鉄筋径の25倍以上とする。
(4)機械式継手をイモ継ぎ部に使用する場合は、継手性能はSA級かつ継手信頼度を種とする。



5. 3図 ガス圧接継手工法及び機械式継手工法

6 配筋要領

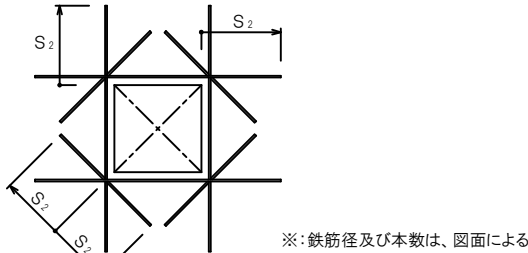
6. 1 壁

6. 1. 1 一般事項

- (1)壁の鉄筋の継手及び定着は、5. 1項及び5. 2項に基づくものとする。
(2)幅止め鉄筋の鉄筋径及び間隔は、図面による。

6. 1. 2 壁開口部の補強

- (1)壁開口部の補強は、図面による。補強鉄筋の長さ及び位置は、6. 1図を標準とする。

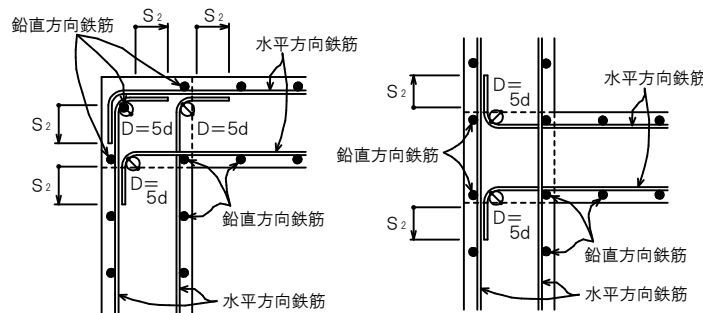


6. 1図 壁開口部の補強要領

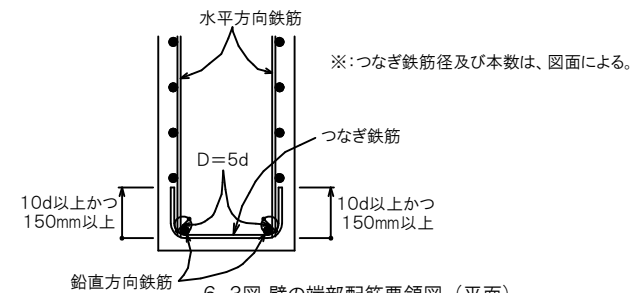
- (2)開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 1. 3 壁と壁の交差部及び端部

- (1)壁と壁の交差部の鉄筋加工要領は、6. 2図による。
(2)壁の端部の鉄筋加工要領は、6. 3図による。



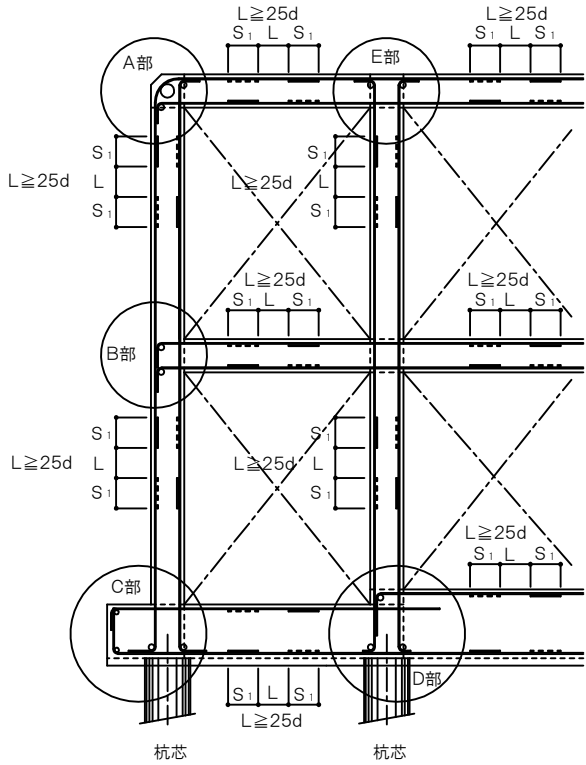
6. 2図 壁と壁の交差部配筋要領図（平面）



6. 3図 壁の端部配筋要領図（平面）

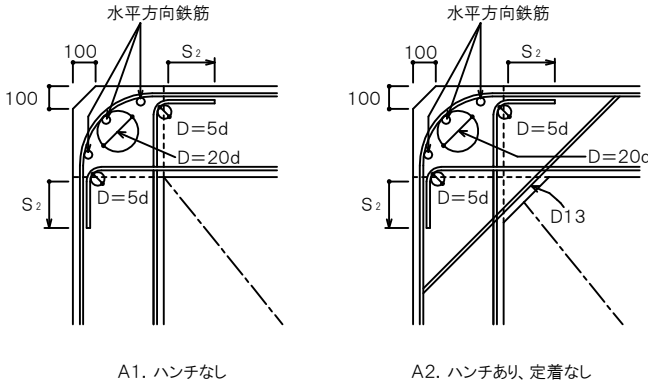
6. 1. 4 壁と床版・底版の交差部

- (1)壁と床版の交差部は、6. 4図及び6. 5図による。



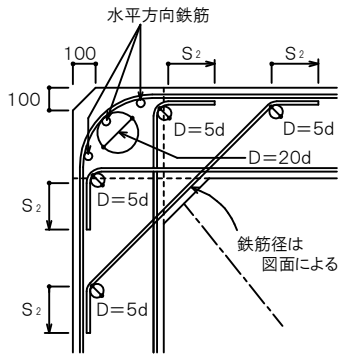
注1：重ね継手は、応力の小さい位置とする。

6. 4図 壁と床版・底版の交差部配筋要領図（断面）



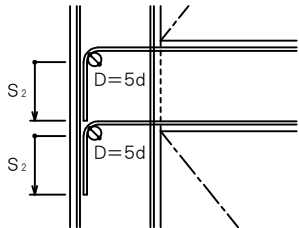
A1. ハンチなし

A2. ハンチあり、定着なし

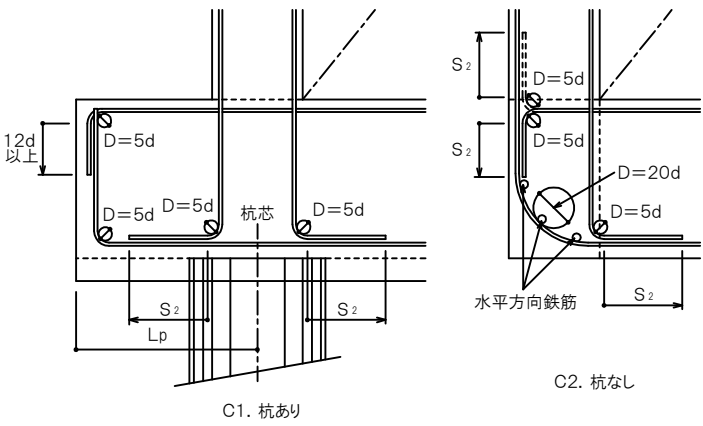


A3. ハンチあり、定着あり

(1)A部詳細図



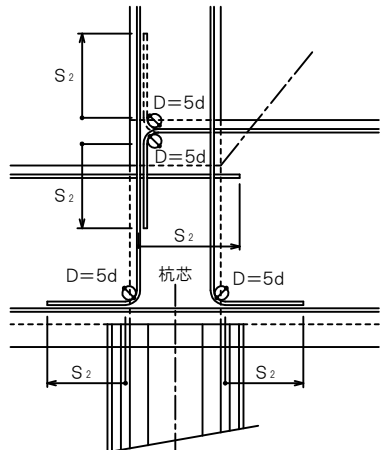
(2)B部詳細図



C1. 杭あり

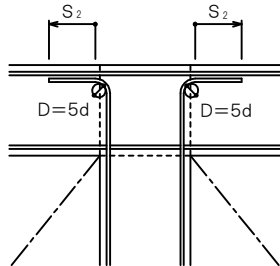
C2. 杭なし

(3)C部詳細図



※配筋要領は杭あり、杭なしとも同一

(4)D部詳細図



(5)E部詳細図

凡例

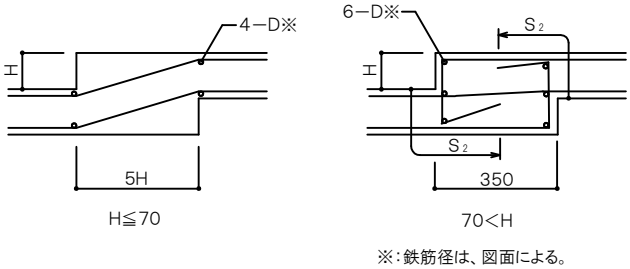
- ・D：鉄筋の曲げ内法直径
・d：鉄筋直径（呼び名）
・S₁、S₂： 5. 1表のとおりであり、折曲げ加工後の直線長で確保する長さ
注1：A部以外においてハンチを設ける場合は、ハンチ筋についてA部に準じた配筋とする。
注2：ハンチを設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はA2を、図面に指示がある場合はA3を適用する。
注3：C部の杭なしの場合、及びD部において、底版上端筋の曲げ定着は下方に取ることを原則とするが、部材厚等の関係で直線状にS₂定着長が確保できない場合は、上方に取ることによりよいものとする。
注4：L_pは、場所打杭・打ち込み杭・埋め込み杭は1. 0D（Dは杭径）以上とする。

6. 5図 壁と床版・底版の交差部配筋詳細図（断面）

6. 2 床

6. 2. 1 段差床版の補強

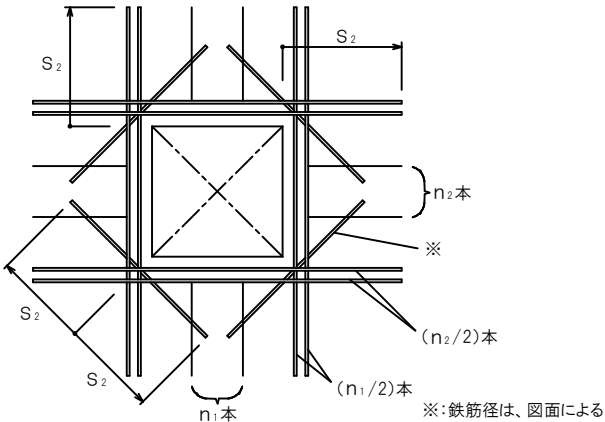
- (1)同一床版に段差がある場合、6. 6図の補強を行う。



6. 6図 同一床版に段差がある場合の補強要領図（断面）

6. 2. 2 床版開口部の補強

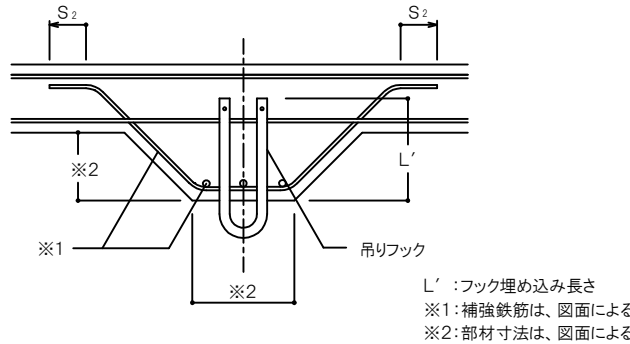
- (1)床版開口部の補強は開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には斜め方向に主鉄筋径以上の鉄筋を上下筋の内側に配筋する。（6. 7図）



6. 7図 床版開口部の補強要領図（平面）

- (2)開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強鉄筋を省略することができる。

6. 2. 3 吊りフックが取り付け場合の補強



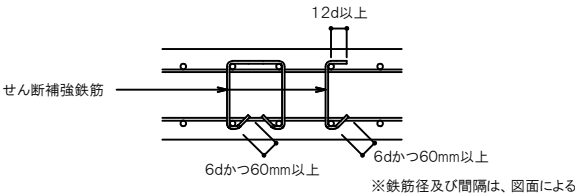
6. 8図 吊りフック取り付け部補強要領図（断面）

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	構 造 細 目 共 通 図（土木構造物） ＜ 令和4年版 ＞		
図面番号	S-2		
縮 尺	—	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

6.3 せん断補強鉄筋

6.3.1 底版・床版

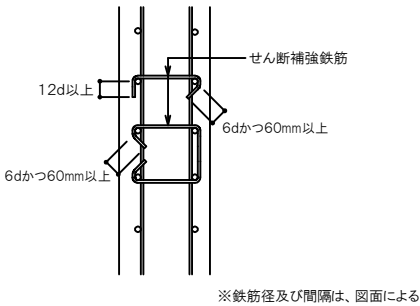
(1)底版・床版のせん断補強要領は6.9図及び6.11図による。



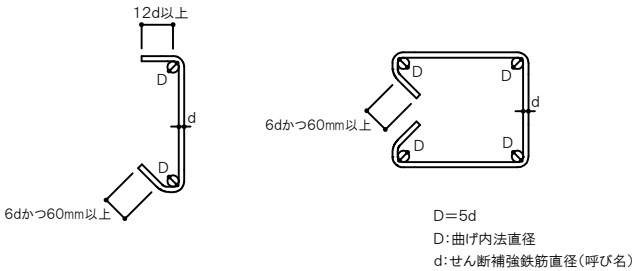
6.9図 底版・床版せん断補強要領図(断面)

6.3.2 壁

(1)壁のせん断補強要領は、6.10図及び6.11図による。



6.10図 壁せん断補強要領図(断面)



6.11図 せん断補強鉄筋加工要領図(断面)

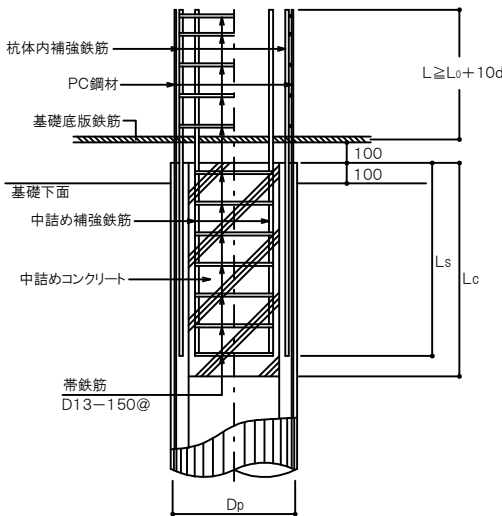
6.4 柱及び梁

柱及び梁を設ける場合の配筋要領は、図面による。

7 杭基礎の補強

7.1 一般事項

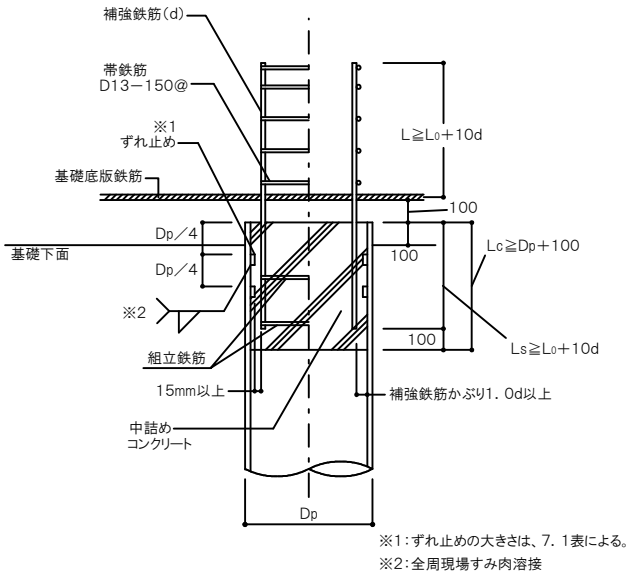
- (1)補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計規準強度を30N/mm²以上とする。
- (2)鉄筋種別、径・本数は、図面による。
- (3)杭基礎の補強鉄筋の定着長L_oは、SD345及びSD390では35d以上、SD490では41d以上とする。
- (4)杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、7.6図による。
- (5)杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態	Type B	
カットオフする場合	鉄筋	L _s ≥ 50φ + L _o + 10d
	コンクリート	L _c ≥ 2.5D _p + 100、かつ50φ + L _o + 10d + (かぶり100)
カットオフしない場合	鉄筋	L _s ≥ L _o + 10d
	コンクリート	L _c ≥ 2.5D _p + 100、かつL _o + 10d + (かぶり100)

注1. φは、PC鋼材径とする。

7.1図 PHC杭の杭頭補強

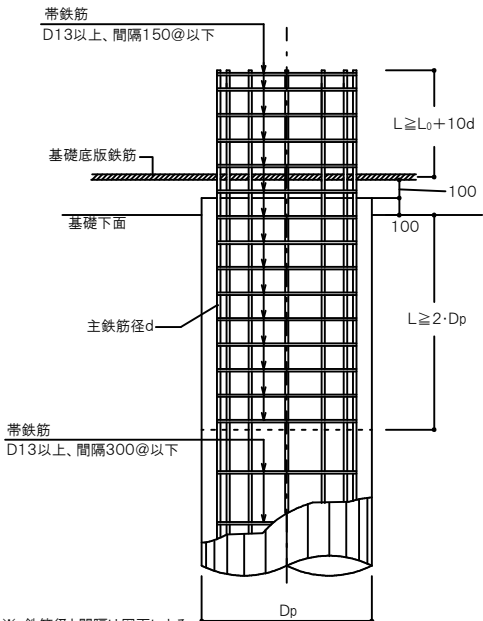


7.2図 鋼管杭の杭頭補強

7.1表 杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

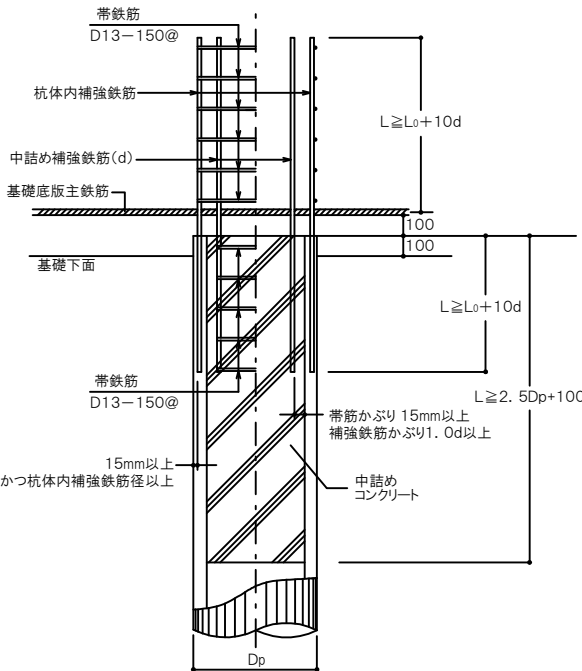
杭 径 (D _p)	ずれ止め厚さ
D _p < 800	9
800 ≤ D _p < 1200	12
1200 ≤ D _p < 1500	16

※材質はSS400

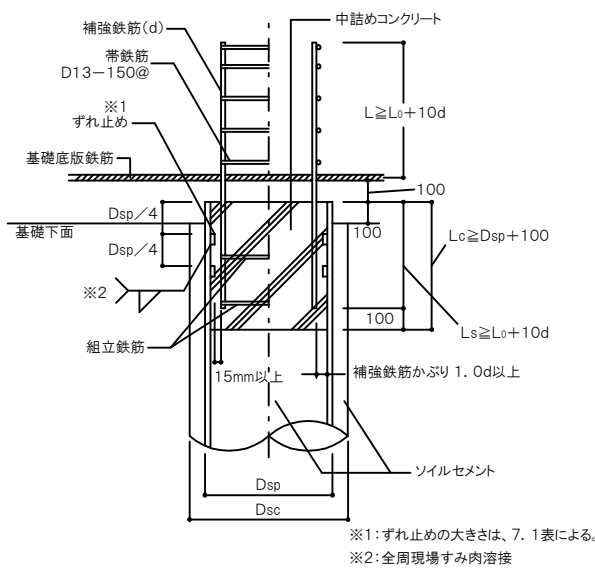


※：鉄筋径と間隔は図面による。

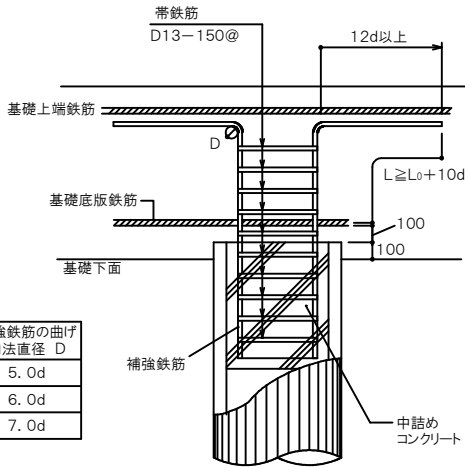
7.3図 場所打ち杭の杭頭補強



7.4図 SC杭の杭頭補強



7.5図 鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

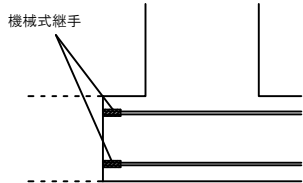
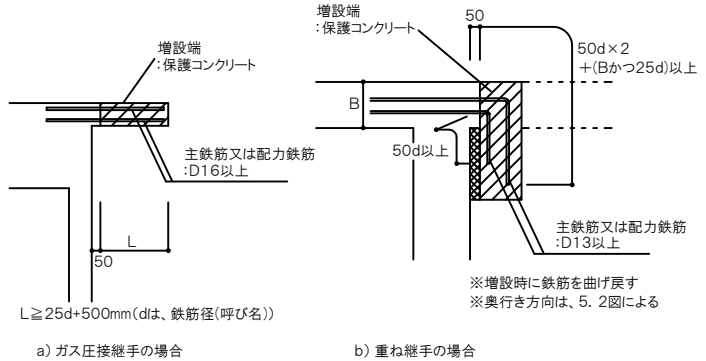


7.6図 杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

8 増設予定端

8.1 増設予定端の配筋

- (1)増設端鉄筋の継手工法は、D16以上をガス圧接、D13を重ね継手とすることを原則とし、8.1図のa)、b)による。部材寸法及び鉄筋の径と間隔は図面による。
- (2)増設端の鉄筋を保護するコンクリート強度は18N/mm²とする。
- (3)D13以上の鉄筋について機械式継手を用いる場合は、8.1図のc)による。機械式継手の仕様は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)によるものとし、継手部の詳細及び継手単体に必要な特性を図面に示す。



c) 機械式継手(A級以上)

※鉄筋径は図面による。

※機械式継手は、D13以上を対象とする。

※機械式継手をイモ継ぎに使用する場合は、構造計算書等により当該箇所に塑性ヒンジが発生しないことを確認する必要がある。施工上やむを得ず機械式継手によるイモ継ぎとなる場合は、継手部が所要の耐震性を有していることを、適切な実験や解析等で照査しなければならない。詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)」による。

8.1図 増設予定端配筋要領図(断面)

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	構 造 細 目 共 通 図 (土木構造物) ＜ 令和4年版 ＞		
図面番号	S-3		
縮 尺	—	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

9 耐震補強

9. 1 適用範囲

- (1)本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の土木構造物の耐震補強に適用する。
- (2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1)土木工事特仕様書	全国上下水道コンサルタント協会	(別紙による。)
2)土木工事共通仕様書	国土交通省**地方整備局	(令和 年版)
3)コンクリート標準示方書・施工編	土木学会	(2017年版)
4)コンクリート標準示方書・構造的な性能照査編	土木学会	(2002年版)
5)官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説	建築保全センター	(平成 8 年版)
6)鉄筋定着・継手指針	土木学会	(2020年版)
7)2017年改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説	日本建築防災協会	(2017年版)
8)あと施工アンカー連続繊維補強設計・施工指針	国土交通省	(2006年版)

9. 2 鉄筋の仕様及び継手

鉄筋の種類及び継手は9. 2表による。

9. 2表 鉄筋の種類及び継手		
種 別	径	
鉄筋の種類	※ SD345	※ D13以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	※1) ガス圧接	・ D19以上の柱、梁主鉄筋 ・ D16以上の増設端の床・壁鉄筋 ・
	フレアー溶接	・ D13以上
	機械式継手	・ 図面による

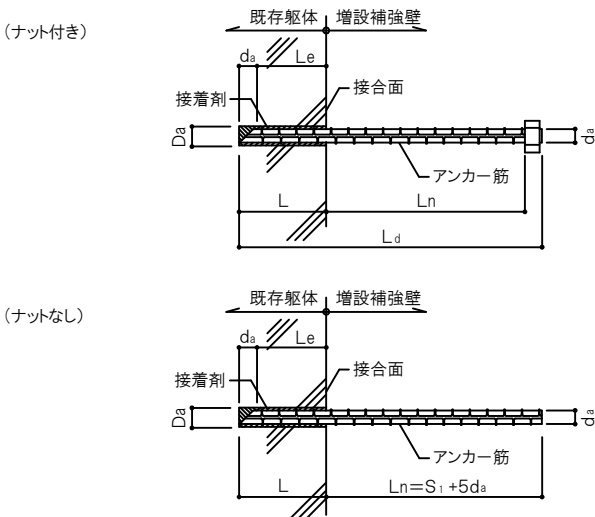
※1)既存の鉄筋種別がSR235、295及びSD295Aの場合は、SD材との継手にガス圧接を使用してはならない。

9. 3 鉄筋の継手長及び定着長

SD345以外の鉄筋との継手長・定着長については図面による。

9. 4 あと施工アンカー（接着系）

- (1)アンカー径は、D13以上、D22以下とする。
- (2)アンカーの打設は、増設壁が接合する四周の柱、梁に行くことを原則とする。
- (3)アンカーの埋め込み・定着長さを9. 4表に示す。



L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
L_e : アンカーの有効埋め込み長さ
L_d : アンカー筋の全長
L_n : 有効定着長さ
D_a : 既存コンクリート躯体への穿孔径
d_a : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名
S₁ : 補強筋との継手長

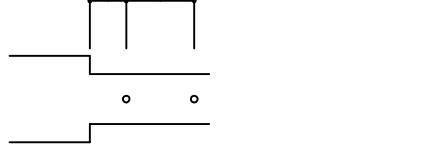
9. 4. 1図 あと施工アンカー埋め込み・定着図

9. 4表 あと施工アンカー埋め込み・定着長さ

区 分	位 置	用 途	長 さ	備 考
有効埋め込み長 (L _e)	一般部	曲げモーメント	12・d _a	先端形状45° カット
		せん断力	7・d _a	
	開口補強部	曲げモーメント	12・d _a	
		せん断力	10・d _a	
有効定着長 (L _n)	一般部	-	20・d _a	ナットあり
	開口補強部	-	S ₁ + 5・d _a	ナットなし

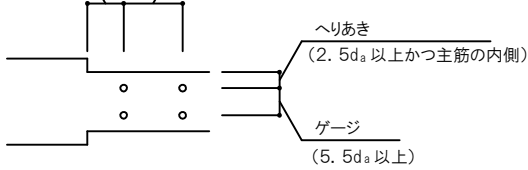
(あと施工アンカーの位置と間隔)

はしあき (5d_a 以上) ピッチ (7. 5d_a 以上かつ300mm以下)



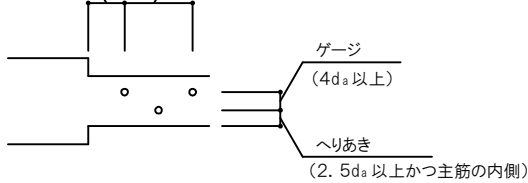
(a)シングル配置

はしあき (5d_a 以上) ピッチ (7. 5d_a 以上かつ300mm以下)

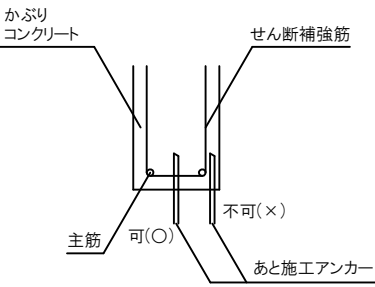


(b)ダブル配置

はしあき (5d_a 以上) ピッチ (7. 5d_a 以上かつ300mm以下)



(c)千鳥状配置

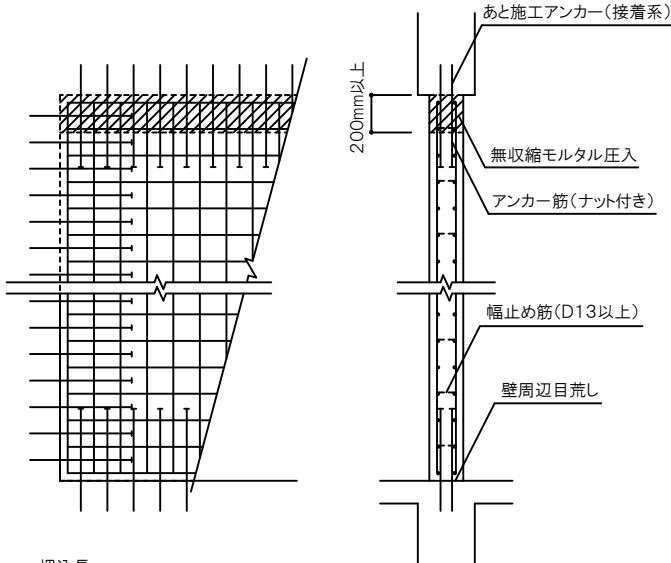


(d)断面配置

9. 4. 2図 あと施工アンカー配置図

9. 5 新設補強壁

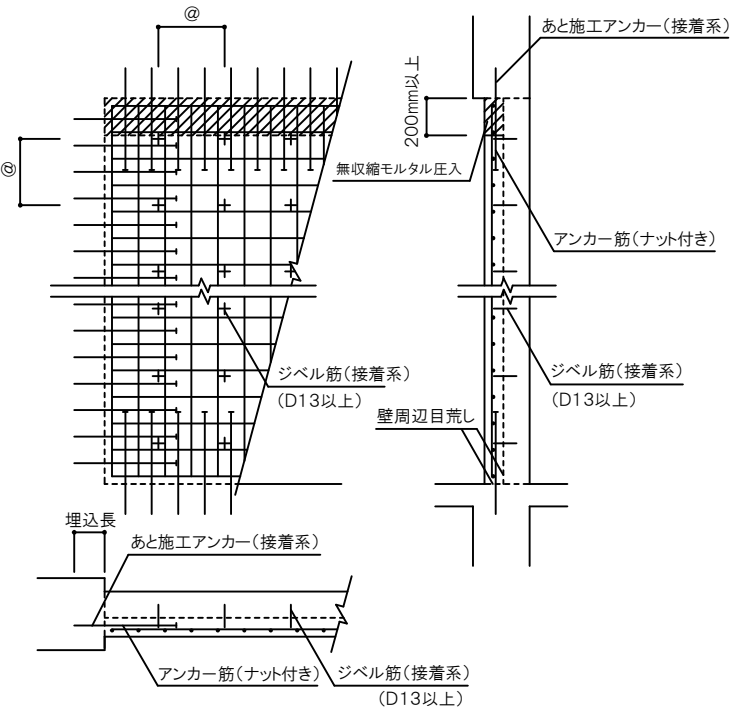
- (1)新設補強壁の配筋は9. 5図を標準とする。
- (2)新設部と接する既存の壁面には目荒しを施す。
- (3)あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (4)新設壁の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。



9. 5図 新設補強壁要領図

9. 6 増打ち補強壁ほか

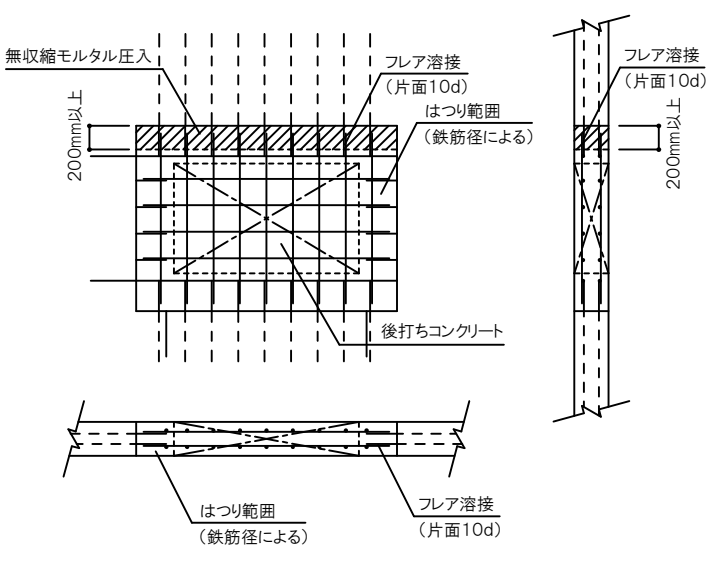
- (1)増打ち補強壁の配筋は9. 6図を標準とする。
- (2)あと施工アンカーは接着系とし、開口補強部を除き、アンカー筋はナット付きとする。
- (3)増打ち部と接する既存の壁面を目荒しするほか、新旧の壁面にジベル筋を設けるものとし、配置間隔は図面による。
- (4)増打ち壁の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。
- (5)梁下端部や垂れ壁下端部の施工では、コンクリートのブリーディングや沈下を考慮して、打継目が一体となるように留意する。



9. 6図 増打ち補強壁要領図

9. 7 開口閉塞

- (1)既存壁と増設壁との接合は、開口周囲のコンクリートをはつり、鉄筋同士をフレア溶接で行う。
- (2)閉塞部分が既存梁、柱と接する部位は全てあと施工アンカーで接合する。
- (3)閉塞部分の頂部200mm以上は、無収縮モルタル圧入とする。

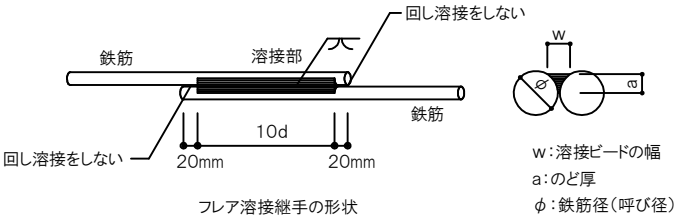


はつり範囲例 mm	
壁の鉄筋径	はつり幅
D13	200
D16	200
D19	300
D22	300
D25	300

9. 7図 開口閉塞要領図

9. 8 フレア溶接

- (1)特記なき鉄筋のフレア溶接の継手形状を9. 8図に示す。
(詳細は「鉄筋定着・継手指針[2020年版]」(土木学会)による。)
- (2)継手長さは鉄筋径の10倍とし、回し溶接は行わない。

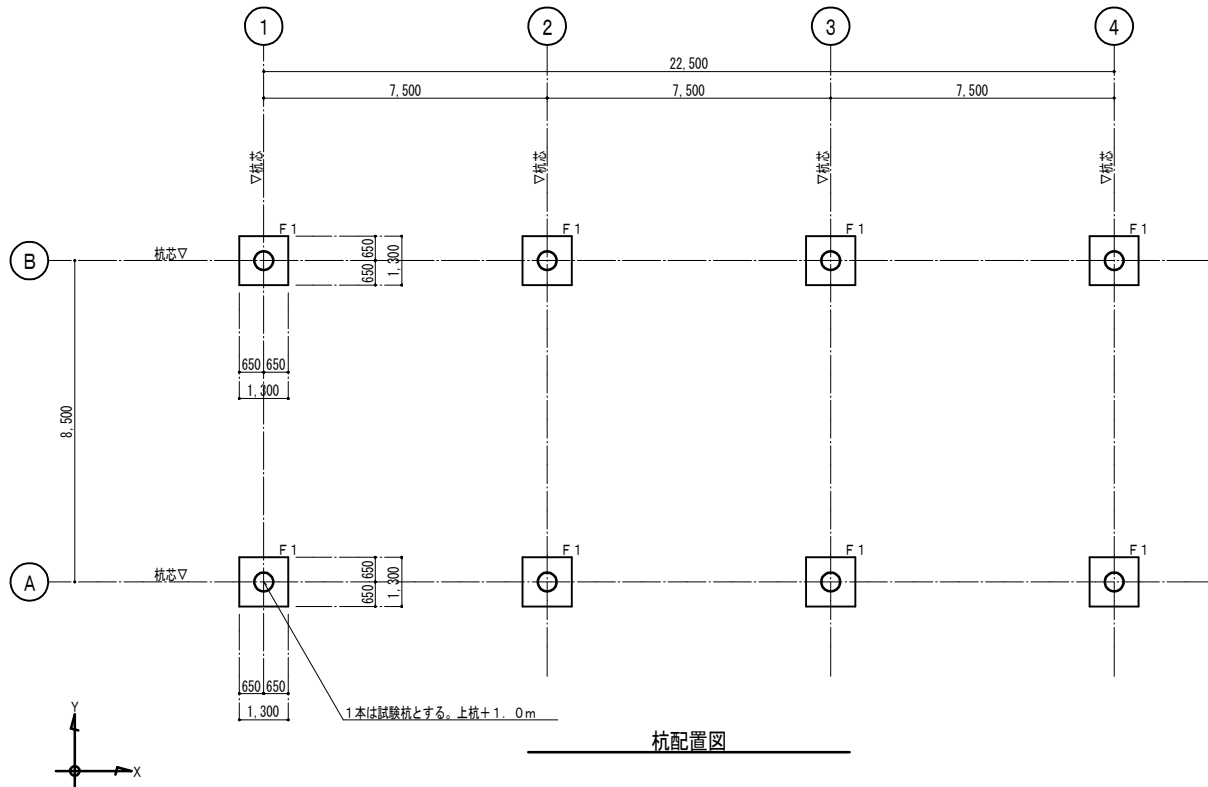
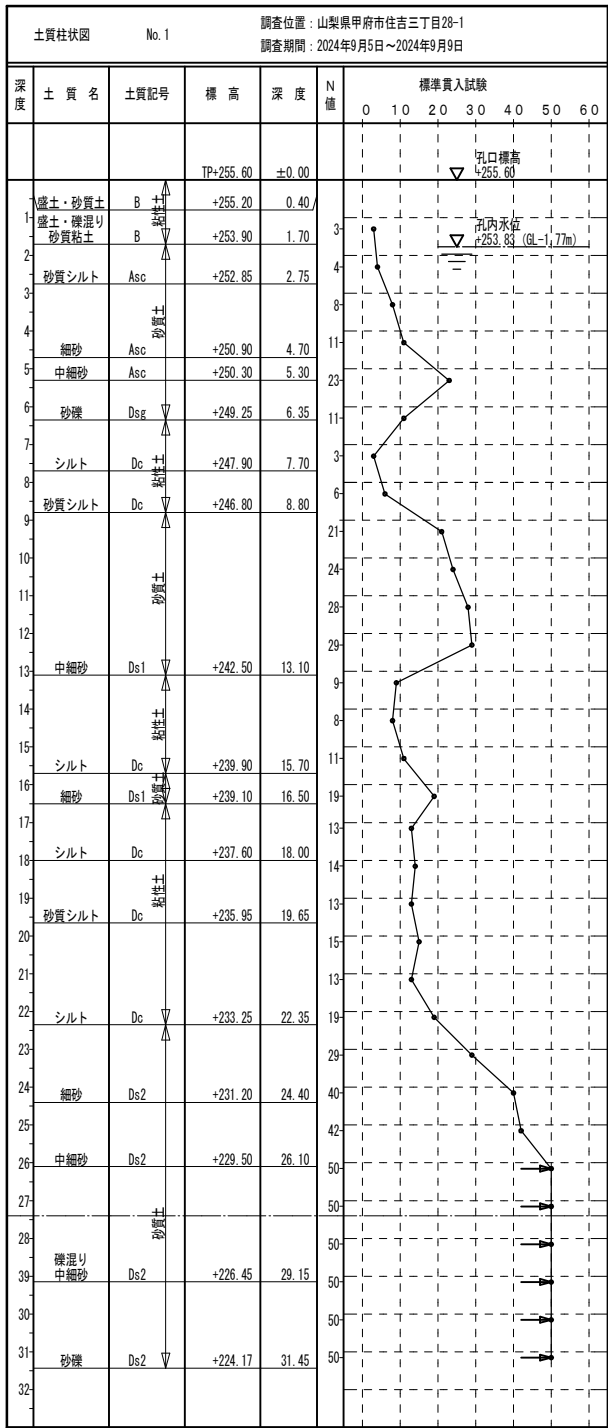


9. 8図 フレア溶接継手形状

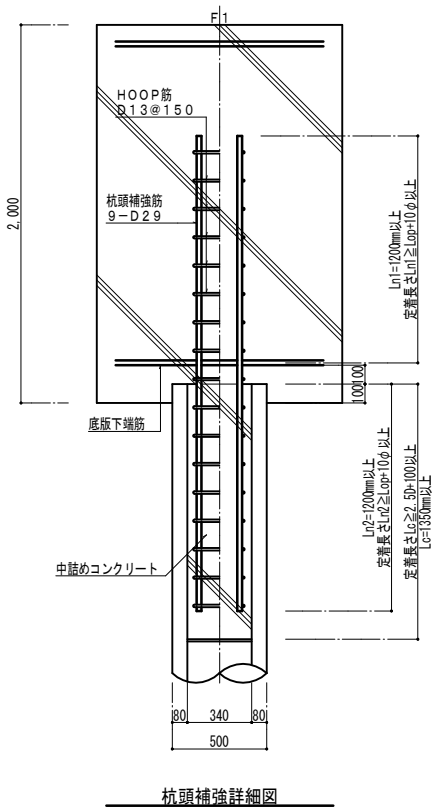
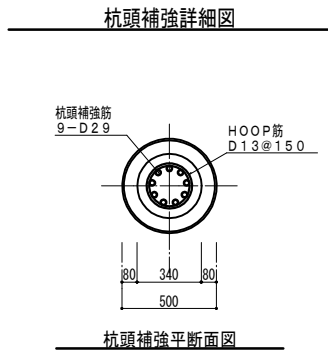
住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	構 造 細 目 共 通 図 (土木構造物) ＜ 令和4年版 ＞		
図面番号	S-4		
縮 尺	—	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

自家発電設備 基礎版 杭伏図

S = 1 : 100



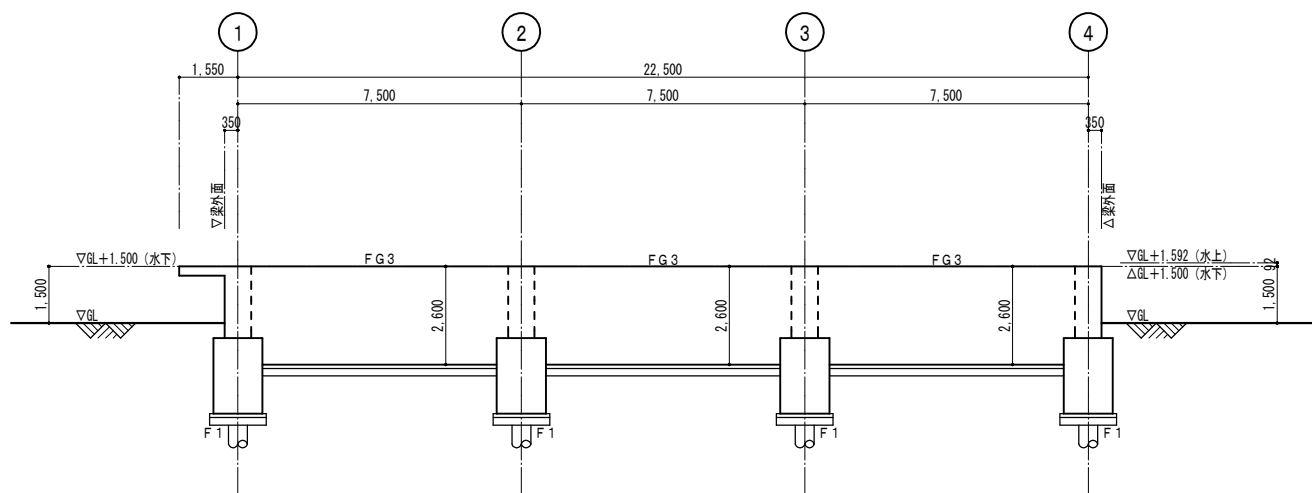
杭リスト											工法：プレボーリング工法										
記号	本数	杭径	杭頭レベル 設計GL-	杭先端レベル 設計GL-	杭長	長期許容 支持力	杭長	材長	材質	種別											
		(mm)	(m)	(m)	(m)	(k N／本)		(mm)													
○	8	5 0 0	2 . 3 0 (TP+253. 200)	2 7 . 3 0 (TP+228. 200)	2 5 . 0	1 , 7 5 0	上杭	5, 000	SC-t9mm	SKK4 0 0											
							中杭	10, 000	PHC	A											
							下杭	10, 000	PHC	A											
杭本数合計		8	本																		



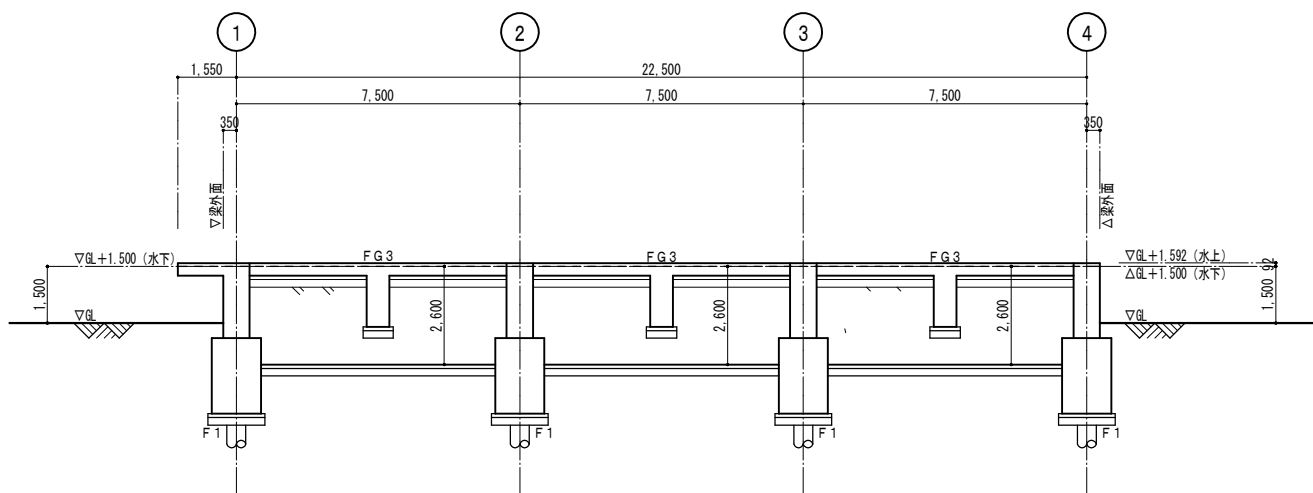
住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 杭伏図		
図面番号	S-5		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			

$$\underline{S = 1 : 100}$$

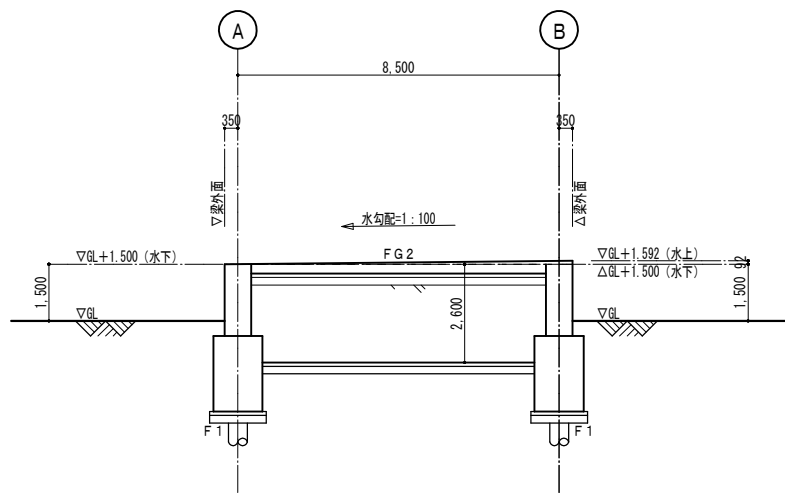

住 吉 中 継 ポ ン プ 場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 梁伏図		
図面番号	S-6		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



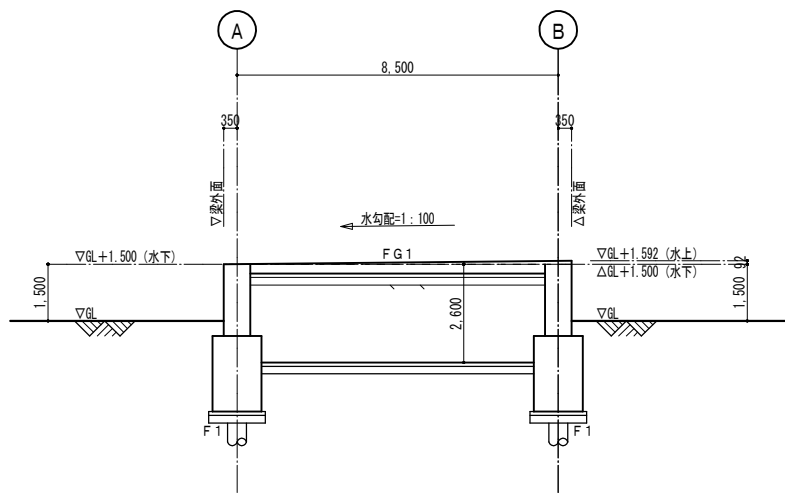
A通り 軸組図



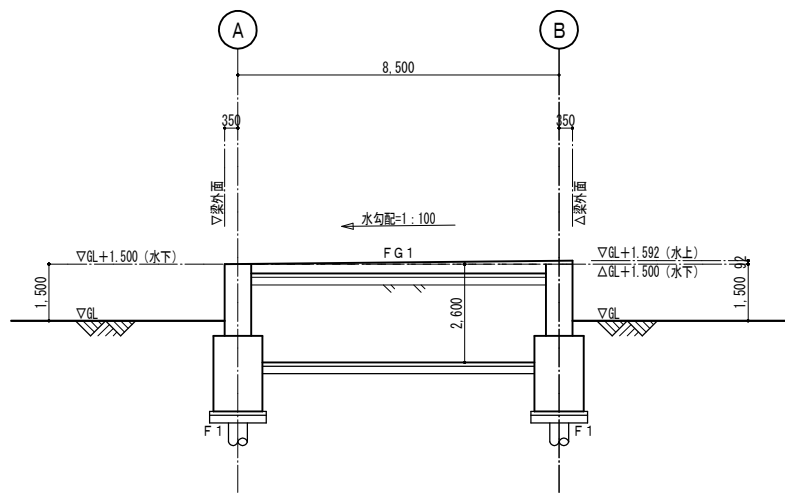
B通り 軸組図



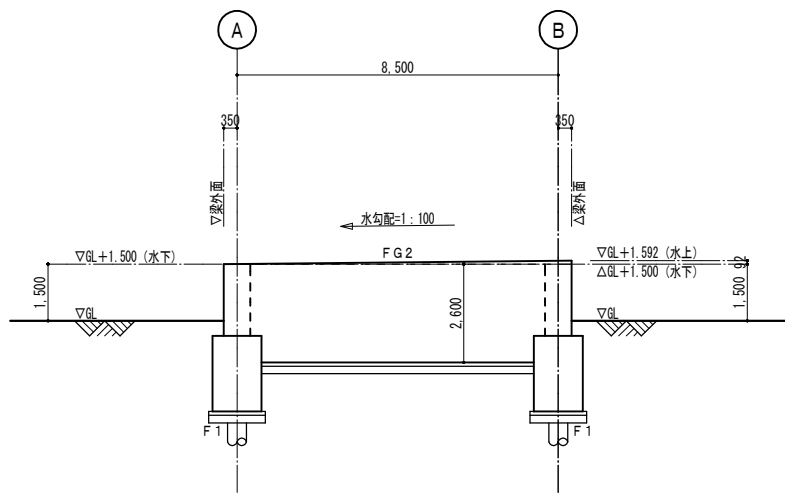
1通り 軸組図



2通り 軸組図



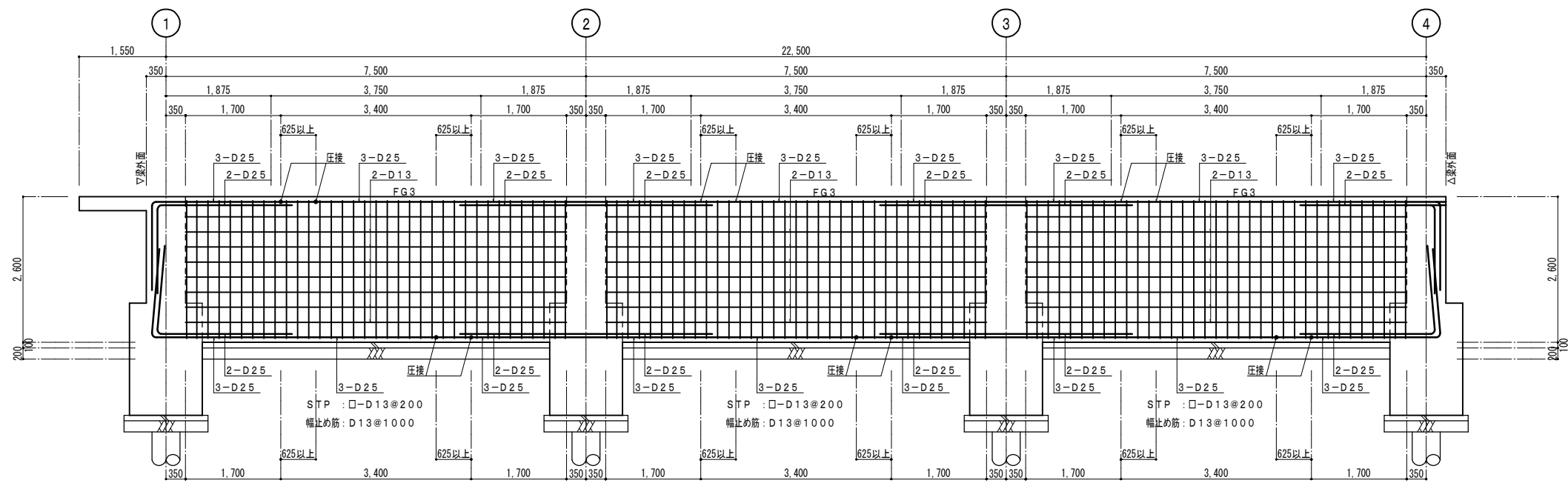
3通り 軸組図



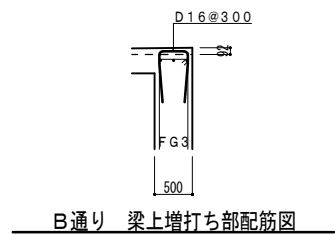
4通り 軸組図

住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 軸組図		
図面番号	S-7		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和6年度
甲府市上下水道局			

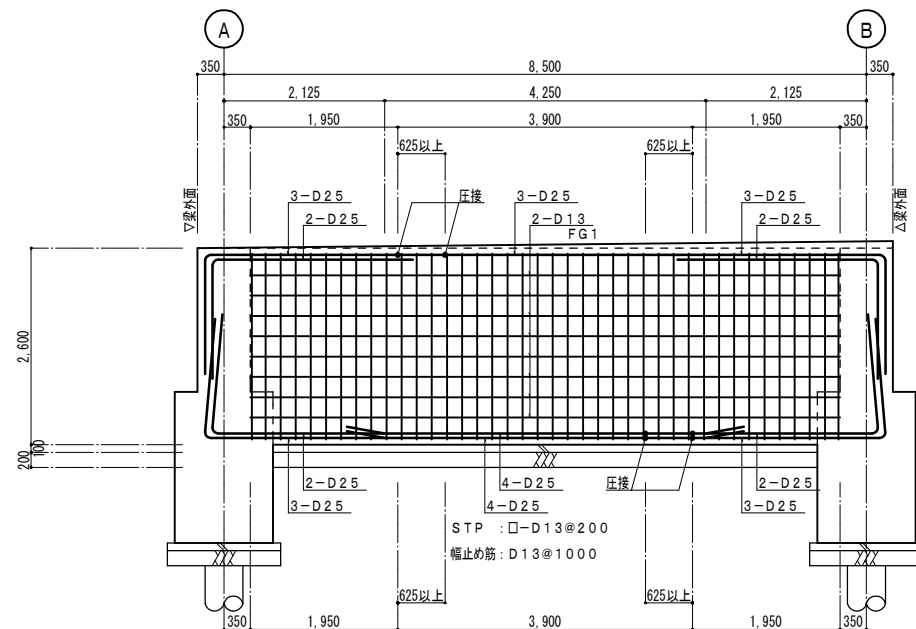
自家発電設備 基礎版 配筋詳細図（１） S=1：50



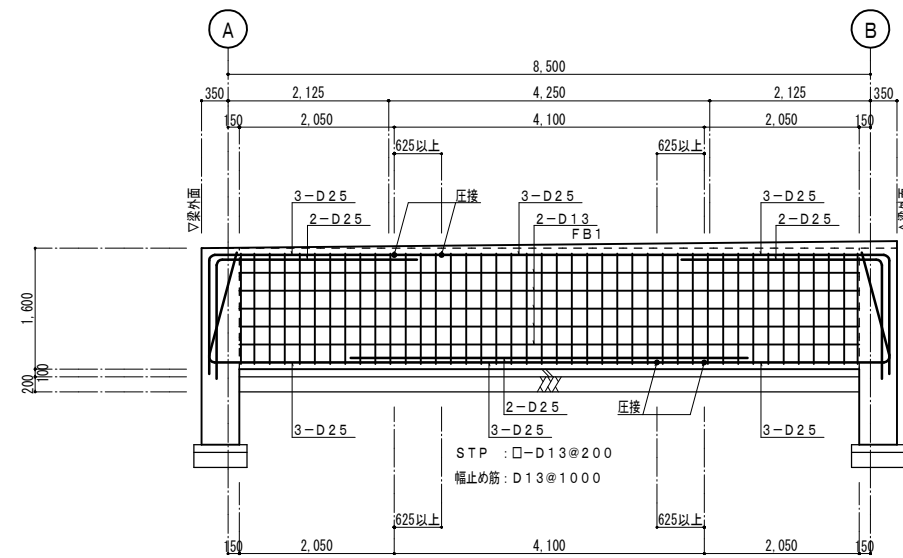
A通り 配筋詳細図



B通り 梁上増打ち部配筋図



2通り 配筋詳細図



FB1 配筋詳細図

住吉中継ポンプ場

工事名称 住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事

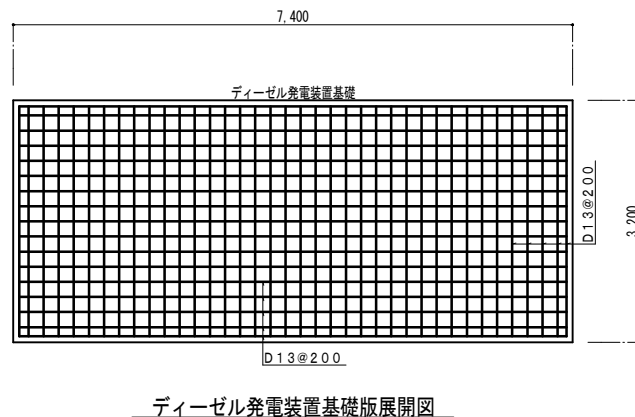
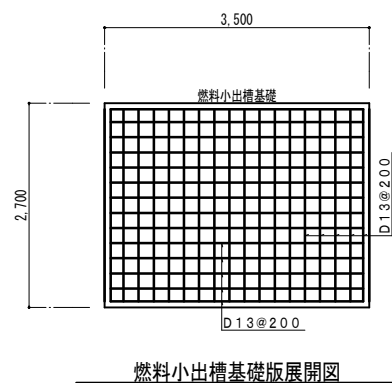
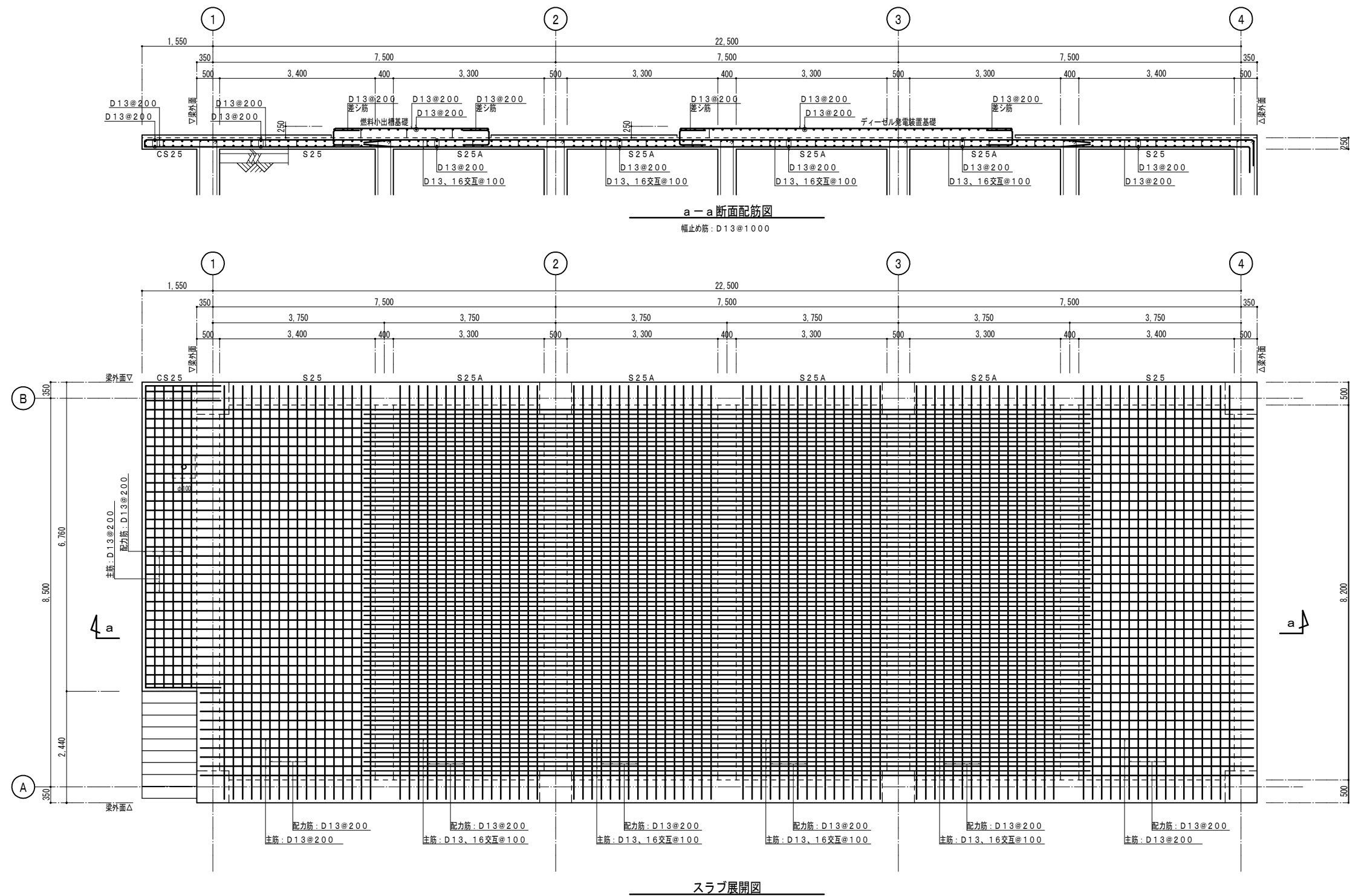
図面名称 基礎版 配筋詳細図（１）

図面番号 S-9

縮尺 A1:1/50 A3:1/100 設計年度 令和6年度

甲府市上下水道局

自家発電設備 基礎版 配筋詳細図（２） S=1:50



住吉中継ポンプ場			
工事名称	住吉中継ポンプ場自家発電設備更新工事		
図面名称	基礎版 配筋詳細図（２）		
図面番号	S-10		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和6年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			